

平成 30 年度 第 1 回白馬村総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成 30 年 11 月 5 日 (月)
開会 午前 10 時 00 分 閉会 午前 11 時 40 分
- 2 会 場 白馬村役場 2 階 庁議室
- 3 出席者 白馬村長 下川 正剛
白馬村教育委員会
教育長 平林 豊
職務代理 幅下 守
委 員 伊藤 公一
委 員 西澤みどり
委 員 田口 令子

(説明等のために出席した職員)

総務課長 吉田 久夫

(事務局)

生涯学習スポーツ課長 関口 久人
教育課長兼子育て支援課長 田中 克俊
教育係長 鈴木 広章
子育て支援係長 松澤 拓哉

- 4 協議事項 (1) 白馬村義務教育の在り方について
(2) 白馬村図書館検討委員会の報告について
(3) 白馬村の子育て支援施策について

5 議事の概要

○開 会

教育課長兼子育て支援課長が開会を宣言した。

○あいさつ (下川村長)

皆様、おはようございます。山も白くなり、順調な降雪を期待しているところで
す。本日はご多忙の中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。教育
委員の皆様には、教育行政全般、そしてまた、昨年の機構改革により幼児の分野ま

で様々な角度から御助言をいただいております、厚くお礼を申し上げます。

当総合教育会議は、教育委員会と行政が連携を密にして、より良い教育環境を目指し、教育委員の皆様と行政が情報を共有化・協議し、共に進めていくことが大きな目的であると思っております。

先日、図書館検討委員会の答申も出され、図書館建設について具現化していくこととなります。この点につきましても、ご意見をいただきますようお願いいたします。

終わりに、西澤委員については先般の議会において承認を受け、再任をさせていただきます。2期目の任期についても、よろしく申し上げます。

○協 議 （議長は下川村長）

(1) 白馬村義務教育の在り方について

- ・教育係長が、会議資料により説明した。

- ・議長が、白馬村義務教育の在り方についての発言を求めた。
- ・教育長職務代理者 資料中に学級数が少ない時のメリットとデメリットの表記があったが、南小には規模が小さいながらも、より良い学習をしており、学校としての連帯感もある。村ではインバウンドも推進しており、南小・北小というだけでなく、小中一貫校の可能性も考えてはどうか。小中一貫校のメリットとデメリットの比較もしたらどうか。
- ・議長 小中一貫校のメリットというのはどんなことか。
- ・教育課長 指導要領の学年を越えたカリキュラムを弾力的に行うことができる。小学生から中学生まで在籍する中で、縦のつながりや、いわゆる、中1ギャップといった問題も緩和できる。
- ・西澤委員 授業の時間はどうなるのか。45分なのか、50分なのか。
- ・教育長職務代理者 様々な設定があると思うので、実際に信濃町等を視察してはどうか。
- ・議長 野沢温泉村でも保育園から中学までの一貫校を設置しているようだ。いずれにしても人口減少と校舎の老朽化からこういったスケジュールを考えているのか。
- ・教育課長 義務教育の在り方の検討を平成31-32年度に行い、33-34年度に施設検討と構想、35-36年度に基本計画と基本設計、37-38年度に実施計画、その後に施工という考えである。
- ・教育長 これから検討を始めていくが、全体構想については、早めに出したい。
- ・総務課長 これだけ施設が老朽化している中で、平成40年度まで現施設利用を続けて良いのか。その判断について保護者了解を得なくて良いのか。全体構想は、立地適正化会議とリンクさせて考えていく。
- ・議長 今まで学校の統合については触れずにきたが、議論する時期だ。すぐに結論を出せるものではないので、議論を進める。
- ・伊藤委員 地域により感情は異なり、児童数が減るのであれば、減築してコンパクトにすることも考えてはどうか。

- ・西澤委員 学校統合という住民感情が伴う。保育園の統合時も非常に大変だった。個人的には、ある程度的人数の中での学習の方が良いと思っている。学校をどこに設置するか、学校の跡地利用についても考えたらどうか。
- ・議長 小中一貫校についても研究し、全庁的な視野で議論するが、子どもにとってどんな教育が一番良いのかを柱に議論を進めていくことでよろしいか。

(2) 白馬村図書館検討委員会の報告について

- ・生涯学習スポーツ課長が、会議資料により説明した。
- ・議長が、白馬村図書館検討委員会の報告に関しての発言を求めた。
- ・議長 図書館施設検討委員会に花井氏は参加しているのか。
- ・生涯学習スポーツ課長 アドバイザーとして参画している。白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議には、図書館施設検討委員会から富山委員長が参画している。
- ・田口委員 場所は、北小が現在の敷地であればよいが、統合した場合についても考えているのか。
- ・生涯学習スポーツ課長 現有施設の場所でしか検討はしていない。図書館や交流場所については、教育委員会で方針を決めていく。白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議では、どんな施設と複合化、一緒にするのか考えている。
- ・教育長職務代理者 複合化は良いが、図書館と一緒にするならば、交流スペースとは音の問題からエリアを分けるような考えを持っているのか。
- ・総務課長 行政として複合化を考えている。他の機能をどこまで持たせていくのか。例えば、図書館に教育委員会の機能を置くのか。機能についても検討しなければならない。
- ・伊藤委員 図書館検討委員会は、この答申を出したことで終わりか。
- ・生涯学習スポーツ課長 この答申に教育委員の意見を加えたものを、村長に提言する。図書館としては、ここまでの機能を持った方が良いのではないかという、図書館としての機能を保てるものを挙げた。
- ・教育長 図書館と何を一緒に設置するのか、教育委員会で決定していない。支援ルームを含めての施設になるのか、今後協議して、教育委員会の方針を村長に提言していきたい。予算についても上限を教えて欲しい。
- ・総務課長 次回の図書館等複合施設に関する有識者会議で、どんな施設と複合させるのか絞り込みに入る。何の施設と何の施設の組み合わせるかにより、補助率から一般財源が推定できる。
- ・伊藤委員 複合化する組み合わせは、ほぼ決まっているのではないか。突飛な組み合わせはないだろう。そこから推計できるのではないか。
- ・生涯学習スポーツ課長 図書館は利益を生み出さない。利益を出す機能を付加すると大きくなってしまう。
- ・総務課長 利益を生む手段は民間の活用をすることで考えていきたい。

(3) 白馬村の子育て支援施策について

- ・子育て支援係長が会議資料により説明した。
- ・議長が、子育て支援施策に関しての発言を求めた。
- ・子育て支援課長 昨年度から子育て支援課を教育委員会に設置し、今年は7月から子育て世代包括支援センター「おひさま」を開所した。妊娠届・母子健康手帳の交付までは子育て支援課で担当しているが、母子保健事業は健康福祉課で担当している。当初からの構想であるワンストップになっていない。
今回は、子育て支援の拡充策として、放課後児童クラブの開所時間の延長をした。これまでも児童クラブは導入からだんだんと拡充させてきた。
放課後子ども教室は、文科省所管で空き教室を利用して子どもの居場所を提供してきた。今回は、放課後児童クラブと放課後子ども教室を併せて行い、放課後子ども総合プランとして行うもの。初年度は週2回の実施でテスト的に開始したい。
- ・議長 放課後児童クラブの時間延長は非常に良いことだ。
- ・総務課長 時間が伸びても、伸びるだけ時間に間に合わない人も出てくる。運用のなかで工夫して欲しい。
- ・議長 南小は学校内（体育館）で放課後児童クラブを行っている。北小においては、放課後児童クラブも放課後子ども教室と一緒に北小の図工室で実施できないか。
- ・子育て支援課長 いきなり厚労省事業の放課後児童クラブを小学校にお願いするのは、管理の問題もあり難しい。
- ・教育長職務代理者 学校としては、間仕切り等して、管轄を分けなければ困るのではないか。
- ・子育て支援係長 北小教頭に聴取した中では、図工室を利用する場合は、コーン等で仕切れば問題ないということだった。
- ・子育て支援課長 実施して管理が難しいということであれば、間仕切りを設ける等考えたい。
- ・教育長職務代理者 放課後子ども教室は、放課後児童クラブに行けない人の居場所対策なのか。
- ・西澤委員 学校が終業して、役場の周りで走って遊んでいる子たちの居場所なのか。こういった子たちが放課後子ども教室に行くかはわからないが、居場所があることはよいことだと思う。
- ・この事業を行えるのも信州型コミュニティスクールが定着し、参加するボランティアが多くいるから。この方々を活用し、事業を進めたい。

○その他

- ・次回の第2回総合教育会議は1月に平成31年度予算について協議する予定。

○閉会

- ・教育課長兼子育て支援課長が閉会を宣言した。